

## □利用実証提案書

## ■利用実証計画書

平成 26 年 11 月 20 日 Ver.1.0

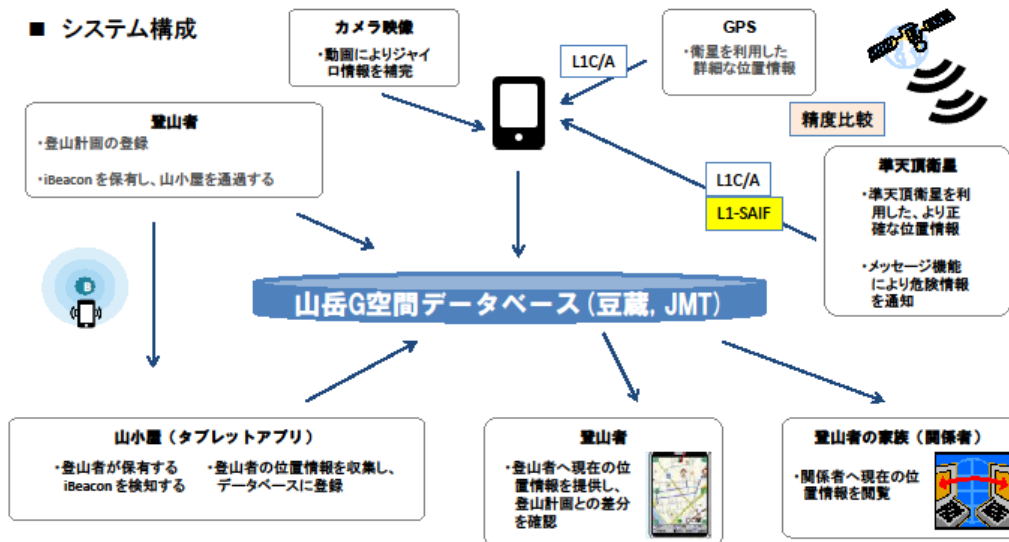
テーマ	国土交通省 G空間社会における山岳遭難防止対策モデル構築事業	
実証参加機関 (共同機関)	長野県G空間プロジェクト協議会 (長野県企画振興部情報政策課、(株)豆蔵、ジエイエムテクノロジー(株))	
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山者の居場所をより正確に特定した行動履歴を取得する</li> <li>・メッセージ機能を活用することにより、3G等の通信が行えない孤立地帯に情報を提供する</li> </ul>	
期間	全体	2014年9月～2015年1月
	時間・頻度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時間: 日中時間帯</li> <li>●頻度: 対象期間中5回以上実施予定</li> </ul>
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地名: 長野県 北アルプスエリア</li> <li>●環境: 山岳地域</li> <li>●その他: 気温-10℃以下の寒冷地屋外で実施</li> </ul>	
構成 ※必要に応じて構成図等を次ページ以降に添付	<ul style="list-style-type: none"> <li>●システム全体構成 別紙参照</li> </ul>	
内容 ※必要に応じて次ページ以降に添付	<ul style="list-style-type: none"> <li>●実証概要 山岳地帯において、GPSのみと準天頂衛星を用いた場合とで測位精度の比較・評価を行い、準天頂衛星のアプリケーション適用可否を検証する。 「登山者支援」アプリをインストールした Android 端末と「QZ1」受信機を持ち、既定のルートを移動する。</li> <li>●実証の確認及び評価(利用効果の定量的評価方法) ・移動ルートのアプリケーションデータおよび NMEA データを取得し、準天頂衛星の有無で測位精度の比較をする。</li> <li>●確認時期 ・実証終了後に解析を行う。</li> </ul>	
受信信号	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用する測位信号名を記載</li> <li>・GPS: L1C/A、</li> <li>・QZS: L1C/A、L1-SAIF</li> </ul>	
受信設備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●使用する測位信号受信機などを記載</li> <li>■貸与品目/数(QZ1/6台)</li> <li>□持込品目/数( / )</li> </ul>	
ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測位結果確認ソフトウェア</li> <li>■ソフトウェア名称/概要 登山者支援アプリ/登山者の居場所を特定するアプリケーション</li> </ul>	
実証前の要求事項	とくになし	
実証時の要求事項	メッセージの送信	
実証後の要求事項	とくになし	
その他		

# 国土交通省 G空間社会における山岳遭難防止対策モデル構築事業

## ■ 登山者の行動支援

登山者の位置情報を収集し、行動履歴を取得する。予め登録された登山計画と行動履歴を比較することで、計画との乖離状況を登山者自身及び関係者に通知する。携帯電波の届かない場所においても、準天頂衛星やジャイロ機能を活用することで正確な行動履歴を把握できるかどうかの実証を行う。

## ■ システム構成



## 調査エリア(北アルプス:上高地～槍ヶ岳～燕岳)

